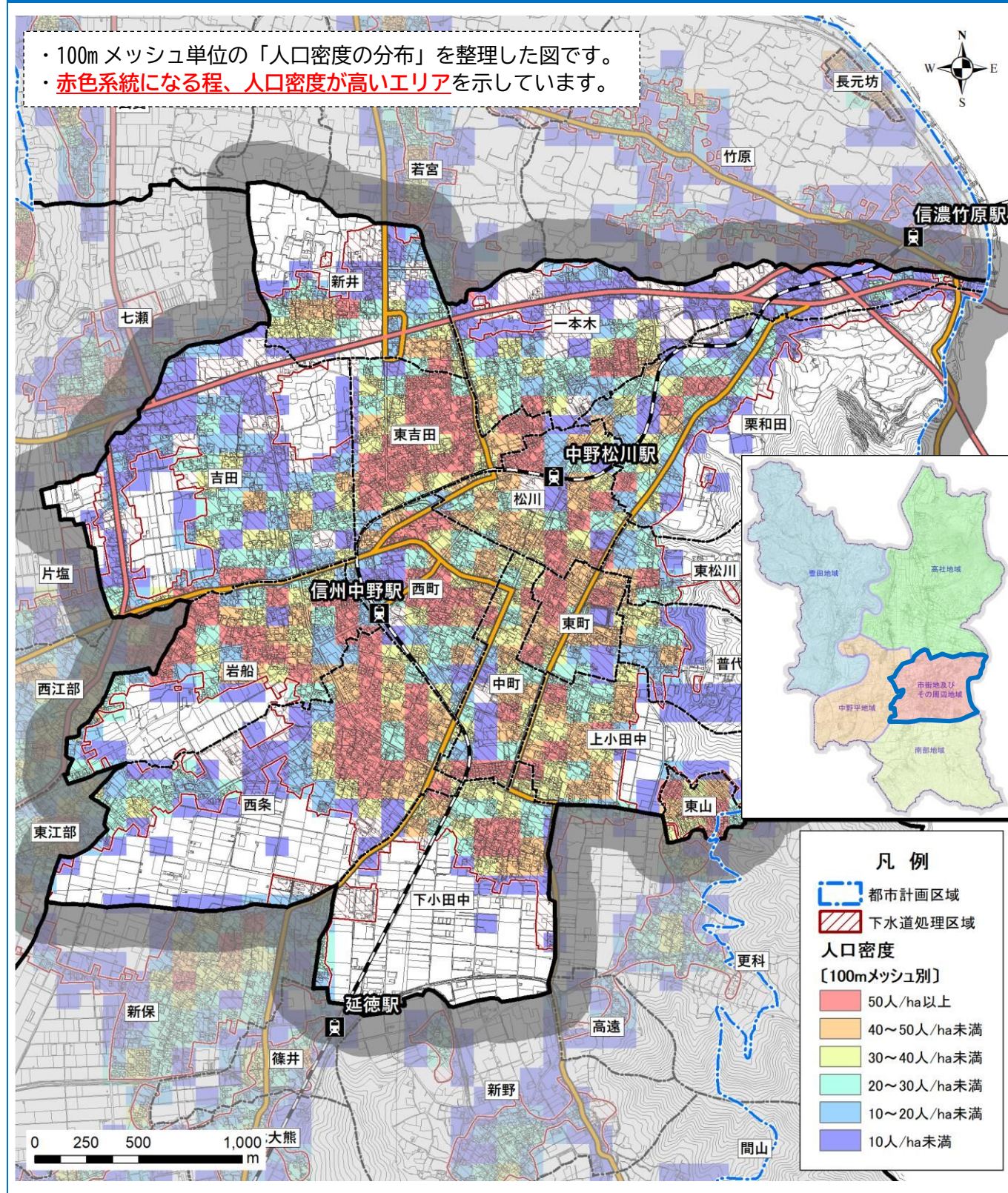


1. おおむね 20 年後の将来の人口見通し

(1) 市街地及びその周辺地域

- 都市計画マスタープランは、おおむね 20 年後の将来を見据えた「都市計画に関する基本的な方針」を定める計画です。
- おおむね 20 年後の将来の人口見通しを把握するため、100m メッシュ別人口密度分布と将来の人口増減数の見通しを整理しました。

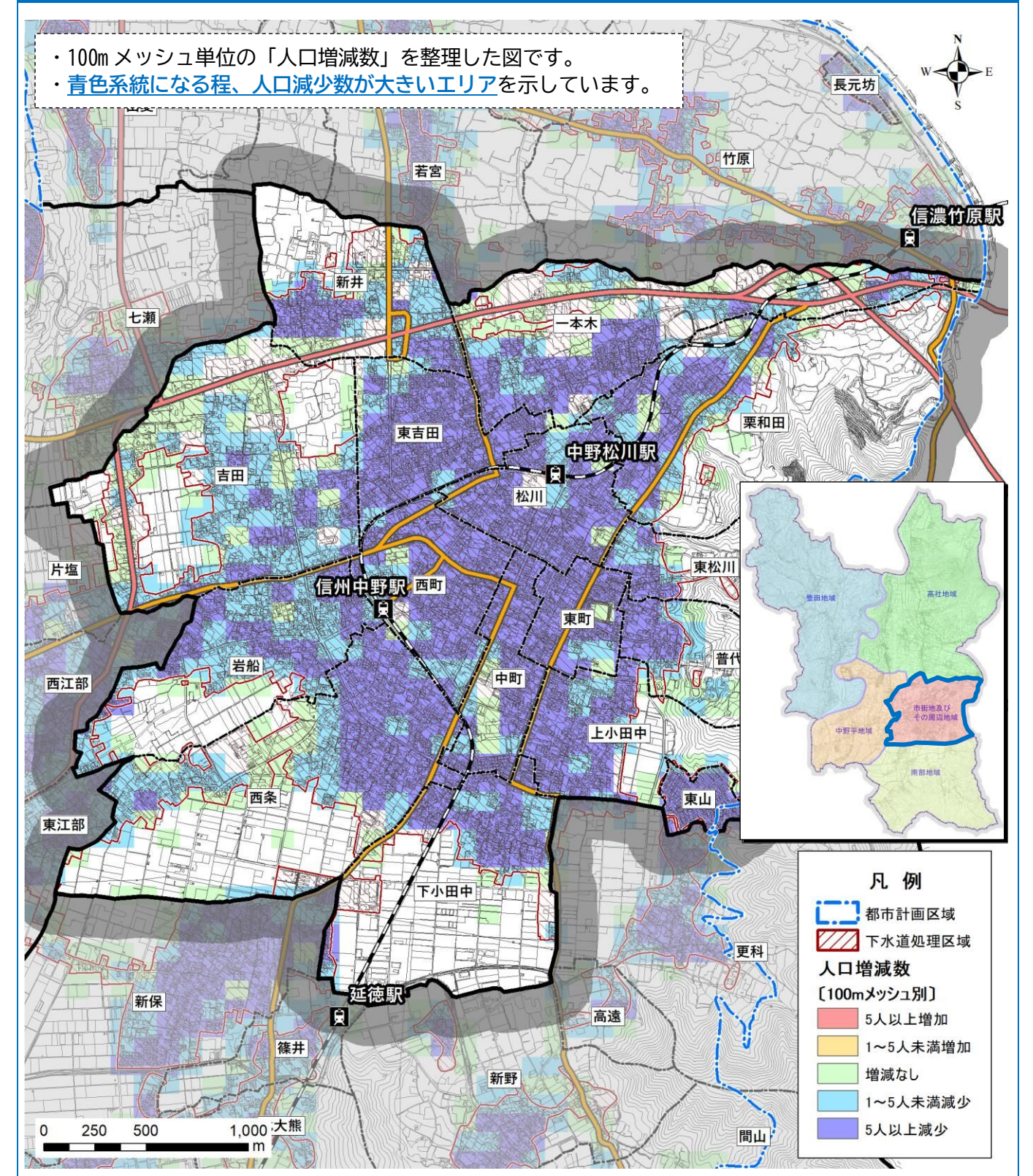
図 1-1：現状の 100m メッシュ別人口密度分布（平成 27 年国勢調査）



▼データの出典

2015年	総務省統計局「平成27年国勢調査地域メッシュ統計」を基に作成
2040年	国土交通省「国土数値情報[500mメッシュ別将来推計人口データ(H30国政局推計)]」を基に作成 ※H30国政局推計は、平成27年国勢調査を基準として、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」に準拠した推計データ

図 1-2：将来の人口増減数の見通し(社人研推計準拠)：2015年(平成27年)～2040年(令和22年)



(2) 南部地域

- 都市計画マスタープランは、おおむね 20 年後の将来を見据えた「都市計画に関する基本的な方針」を定める計画です。
- おおむね 20 年後の将来の人口見通しを把握するため、100m メッシュ別人口密度分布と将来の人口増減数の見通しを整理しました。

▼データの出典

2015 年	総務省統計局「平成 27 年国勢調査地域メッシュ統計」を基に作成
2040 年	国土交通省「国土数値情報[500m メッシュ別将来推計人口データ(H30 国政局推計)]」を基に作成 ※H30 国政局推計は、平成 27 年国勢調査を基準として、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年推計)」に準拠した推計データ

図 1-3：現状の 100m メッシュ別人口密度分布（平成 27 年国勢調査）

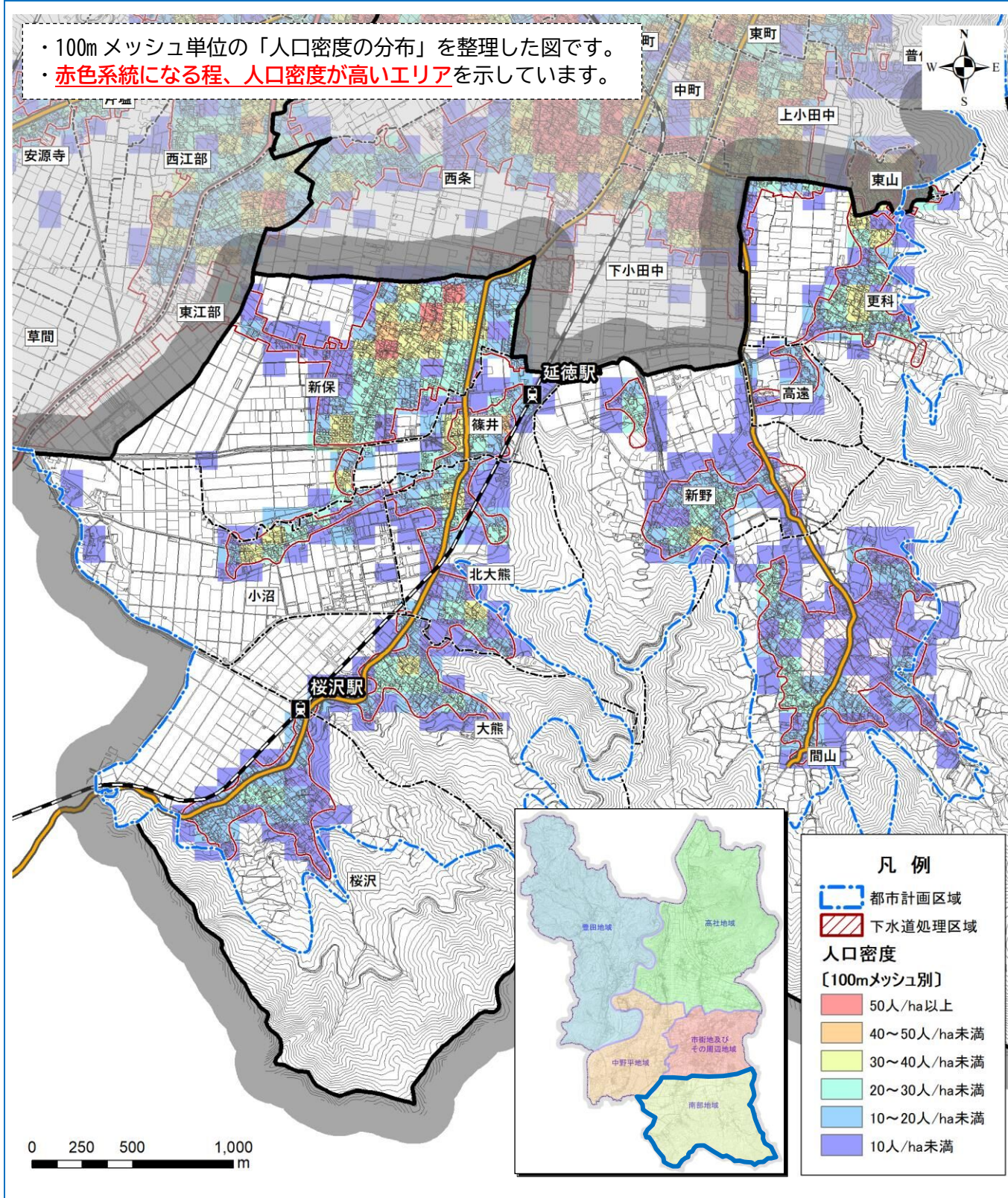
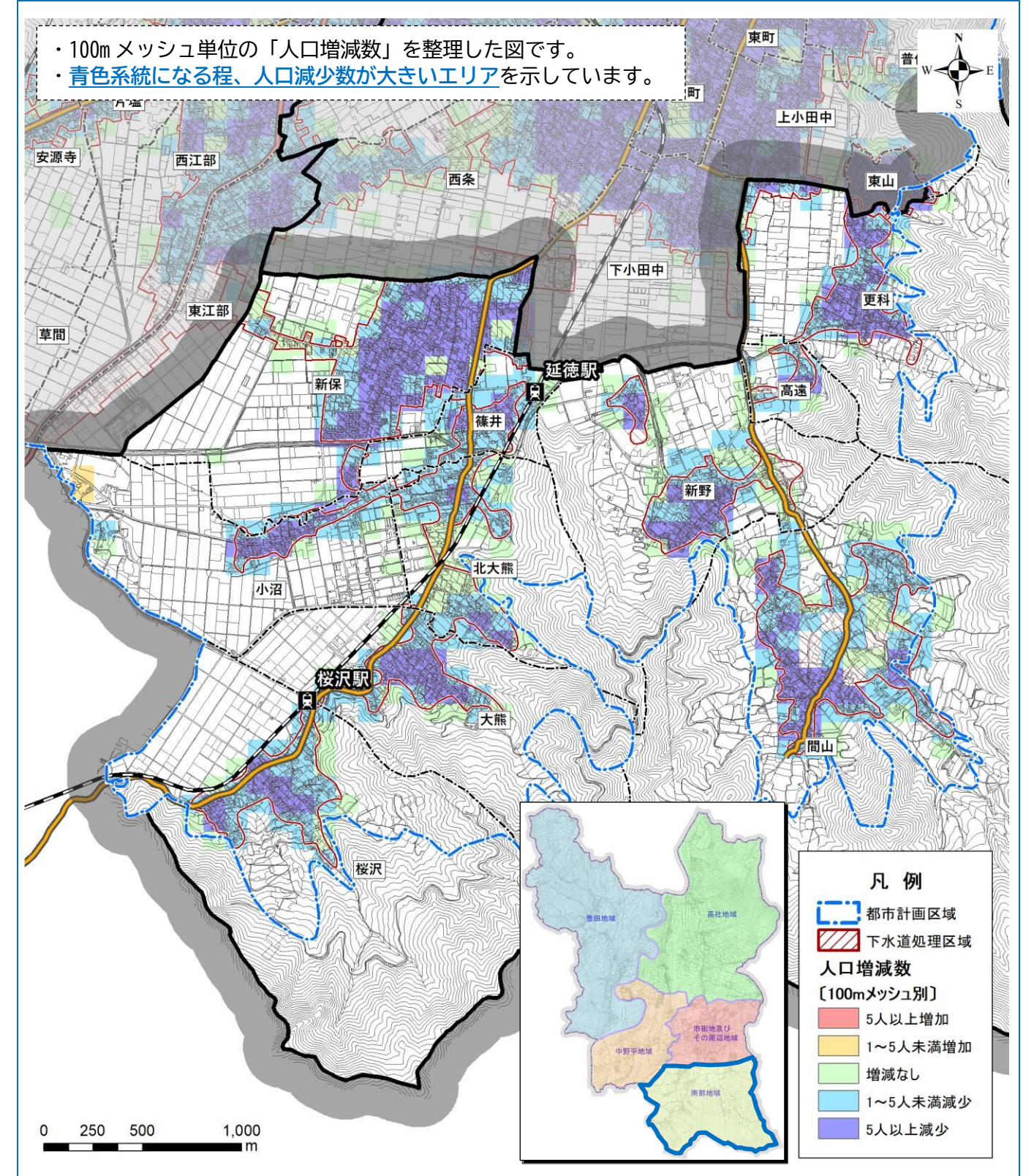


図 1-4：将来の人口増減数の見通し(社人研推計準拠)：2015 年(平成 27 年)～2040 年(令和 22 年)



2. 中野市まちづくりに関するアンケート調査結果の概要

〈アンケート調査の概要〉

【アンケート期間】令和3年9月【アンケート対象者】市内在住16歳以上3,000人

【アンケート回収状況】回収数1,247件（うち、市街地及びその周辺地区回答数：520件）、回収率41.6%

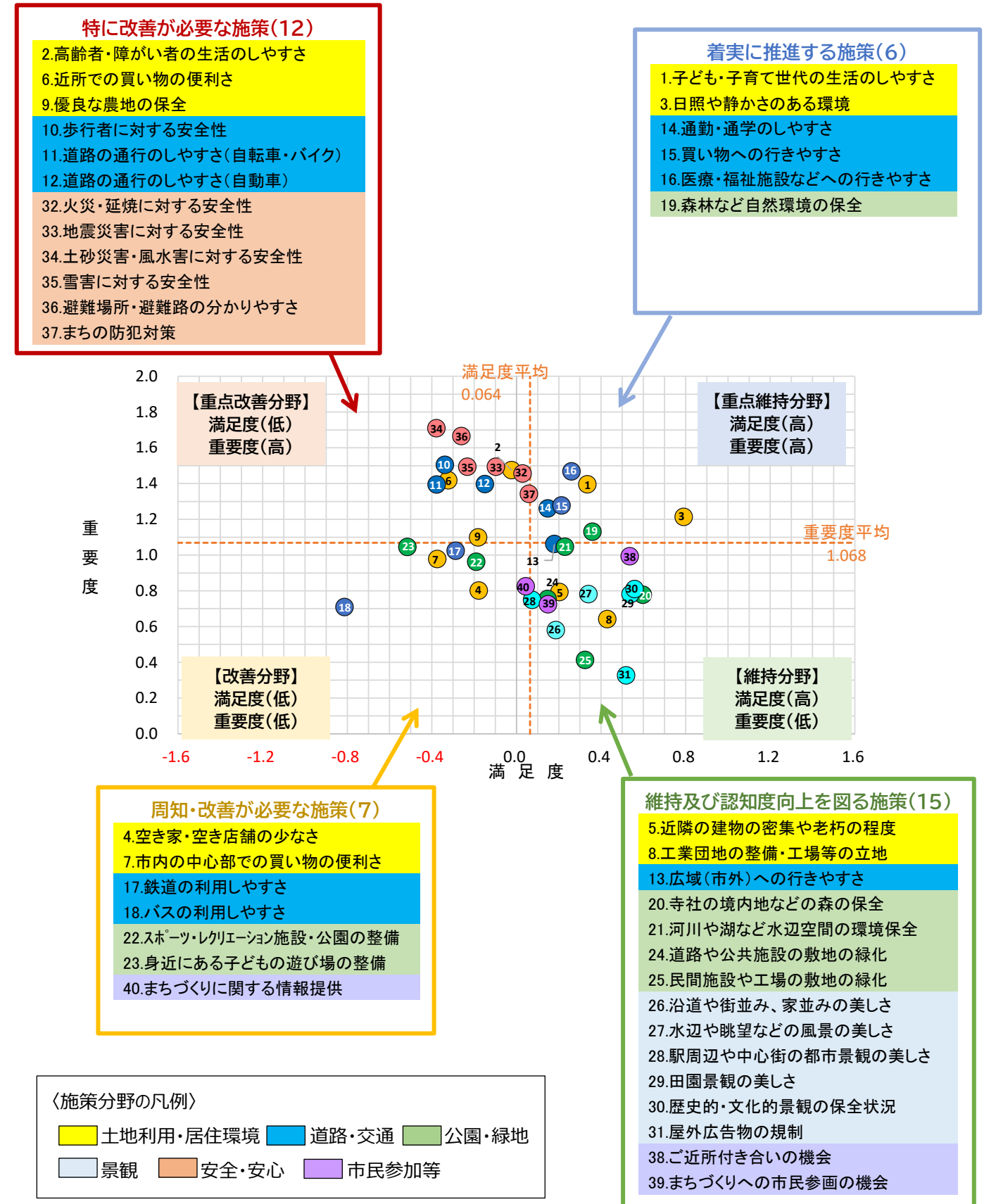
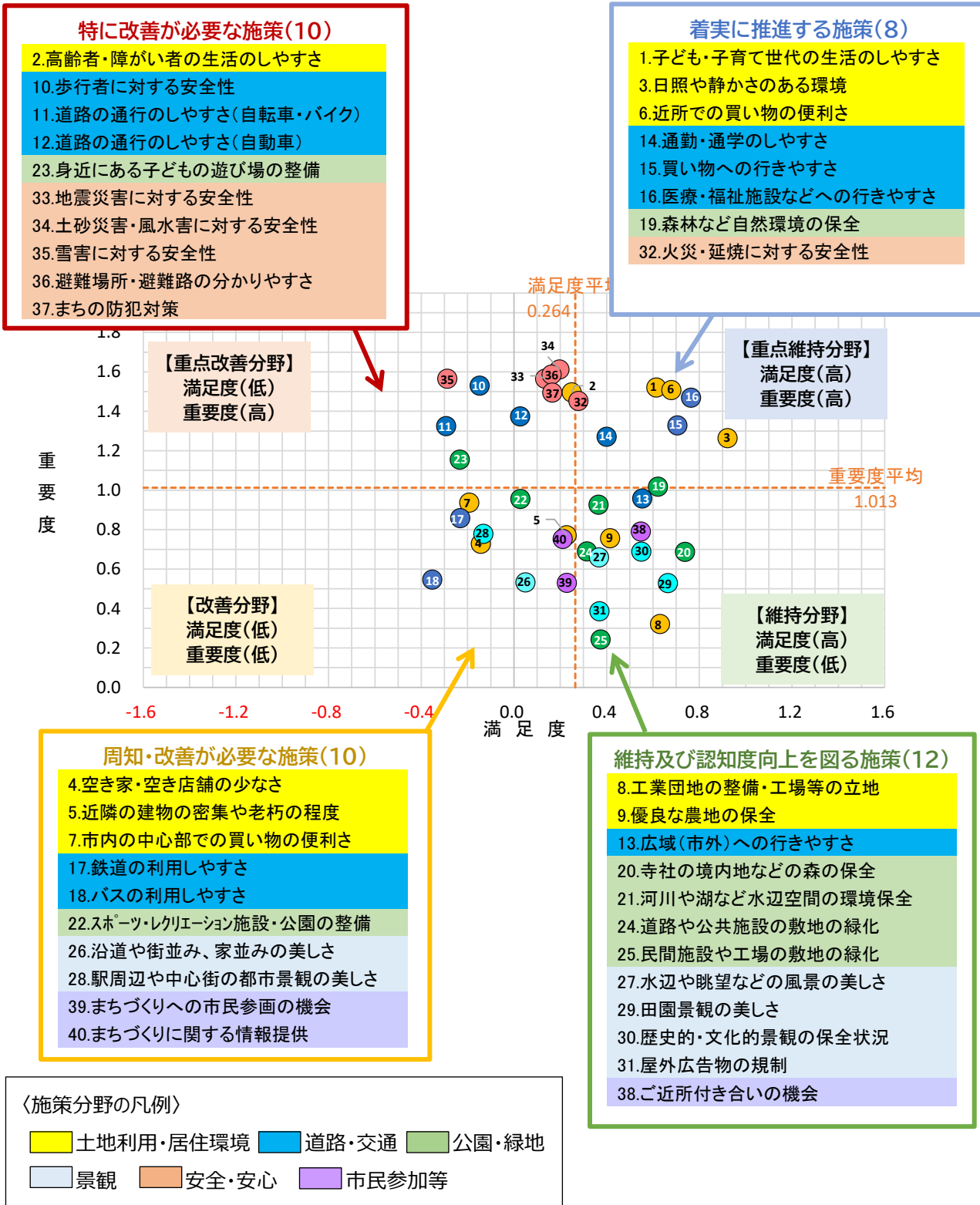
2-2 「住みやすさ」についての満足度と重要度（南部地域）

【アンケート回収状況】回収数1,247件（うち、南部地区回答数：153件）、回収率41.6%

○南部地域では、子ども・子育て環境や日照や静かさのある環境等が評価されています。一方で、優良農地の保全や買い物利便性、安全・安心(=防災や防犯)等について改善が必要といえます。

2-1 「住みやすさ」についての満足度と重要度（市街地及びその周辺地域）

○市街地及びその周辺地域では、買い物環境や医療・福祉施設へ行きやすさなど、利便性の高さが評価されています。一方で安全・安心(=防災や防犯)、道路整備等については改善が必要といえます。



2-3 中野市の将来像について

「地震や大雨、大雪、火災などのあらゆる災害に強いまち(59.7%)」が最も高く、以下、「買い物がしやすく、活気があふれる中心市街地をもつまち(51.5%)」、「生活道路や公園などが充実した、住みやすいまち(36.2%)」の順となっています。なお、若い世代では「買い物がしやすく、活気があふれる中心市街地をもつまち」の回答割合が高い傾向があります。

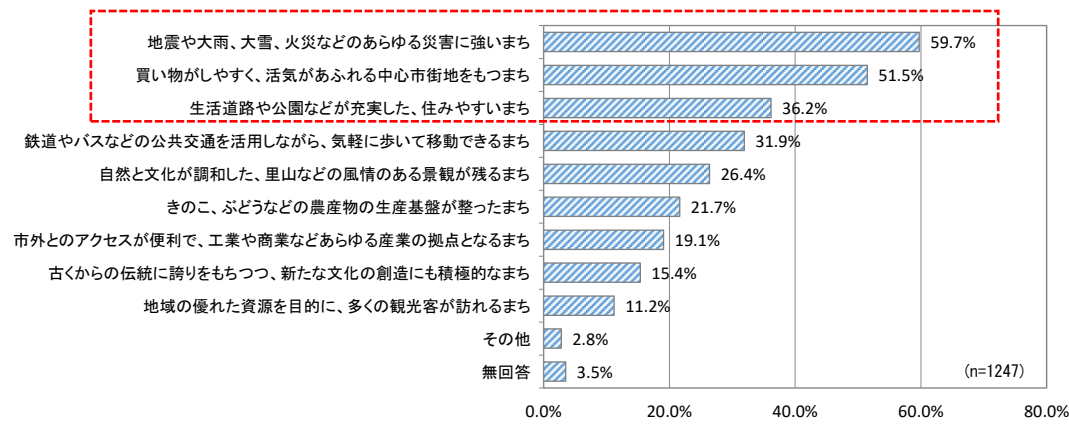


図 中野市の将来像（単数回答）

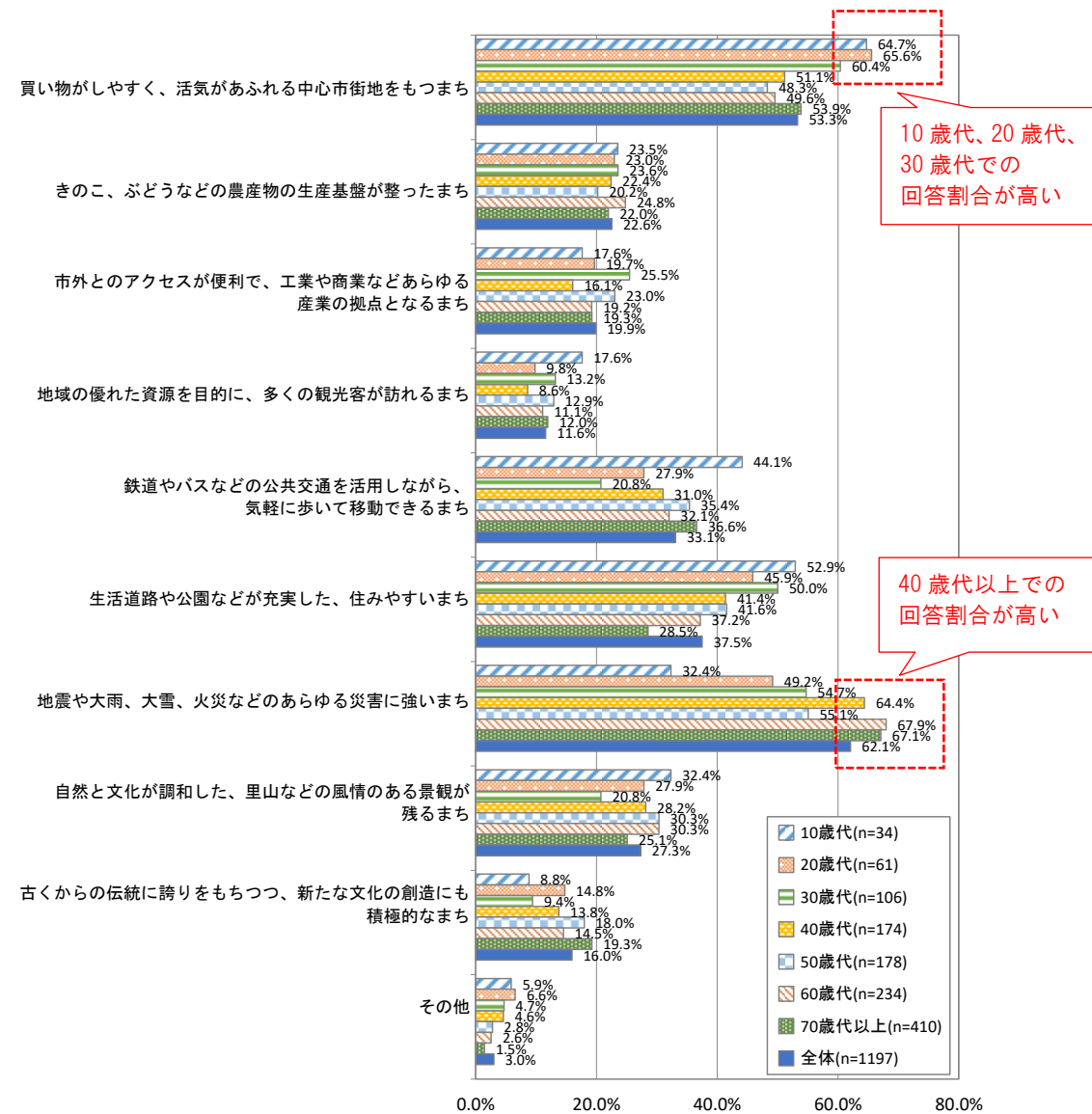


図 中野市の将来像（年代別クロス）

2-4 定住意向

「現在の居住地に住み続けたい」とする回答は、市の全体では77.1%となっており、市街地及びその周辺地域は3.0ポイント上回っています。なお、南部地域では「市内の利便性の高い中心市街地に住み替えたい」という意見が全地域の中で最も高くなっています。

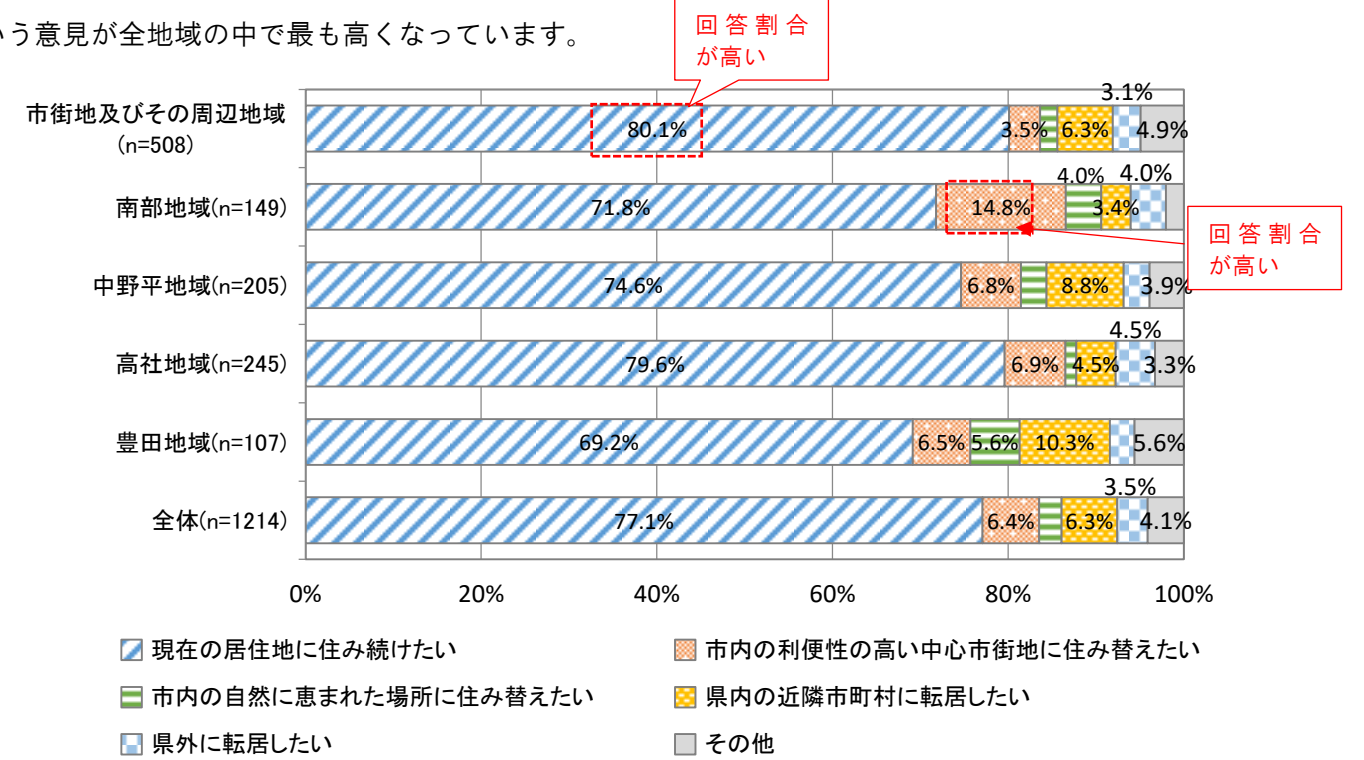


図 定住意向（地域クロス）

2-5 外出する際に最も利用する交通手段

全体としては、8割以上が自家用車となっています。南部地域では「自家用車」の回答がほぼ9割で、全地域の中で最も高くなっています。市街地及びその周辺地域では、「徒歩・自転車」の割合が全地域で最も高くなっています。「路線バス」は両地域とも市全体の水準を下回っています。

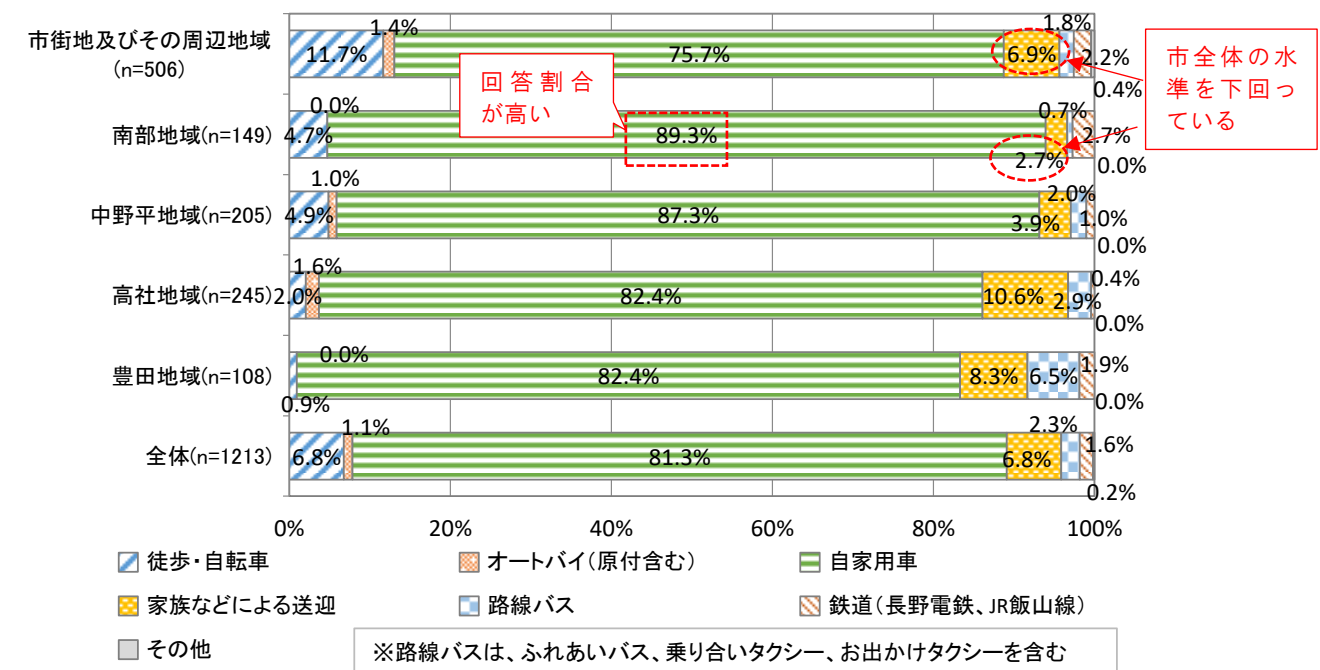


図 最も利用する交通手段（地域クロス）

2-6 中心市街地で維持・充実すべき施設

中心市街地(信州中野駅周辺)で維持・充実すべき施設として、「総合的な医療サービスを受けることができる病院(64.7%)」、「生鮮食品や日用生活品が揃う商業施設(60.1%)」の割合が特に高く、市民生活を支える基幹的な機能の適正な配置が求められています。

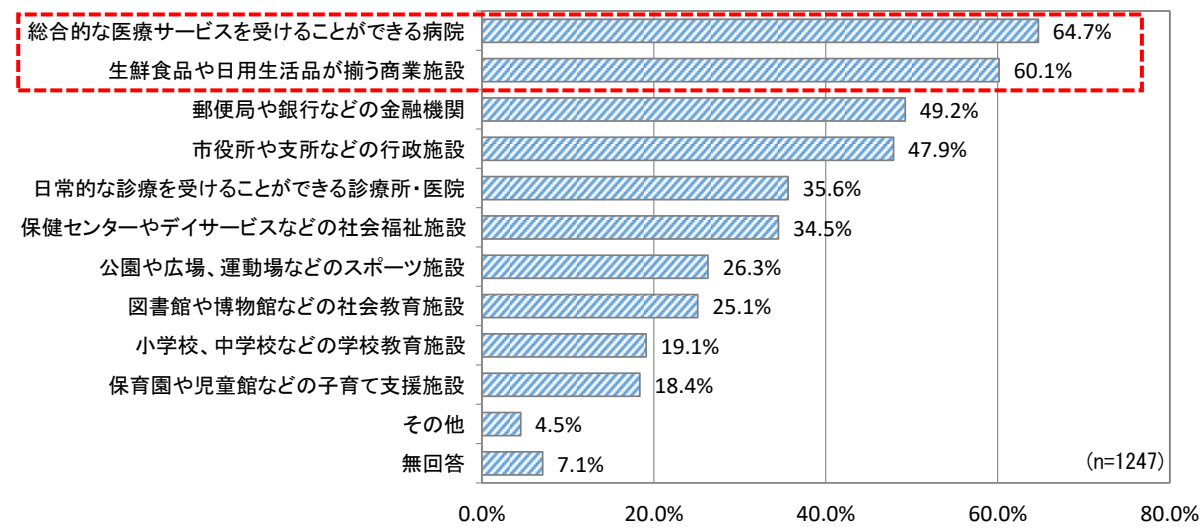


図 中心市街地で維持・充実すべき施設(5つまで回答)

2-7 国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべきだと思ふ施設

国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべき施設として、「生鮮食品や日常生活品が揃う商業施設(71.8%)」の割合が特に高く、次いで「公園や広場、運動場などのスポーツ施設(42.3%)」、「郵便局や銀行などの金融機関(40.3%)」の割合が高くなっており、自家用車での利便性が高い施設の立地が求められています。

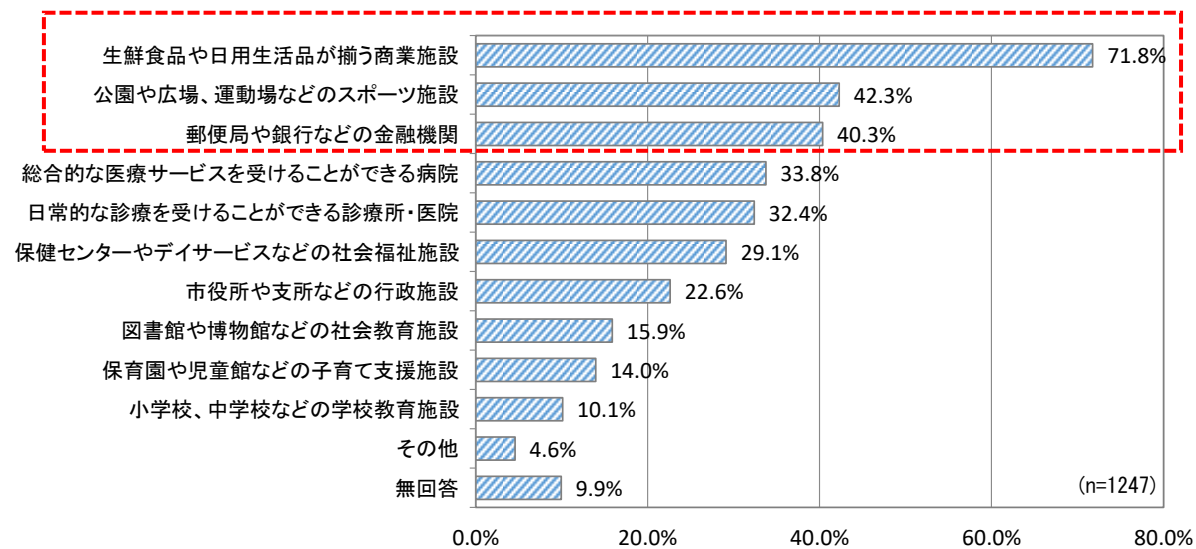


図 国道292号の沿道及びその周辺地域で維持・充実すべき施設(5つまで回答)

2-8 防災・減災対策として、重視すべき取り組み

(1) ハザードマップの認知度

南部地域は「ハザードマップを見て、自宅付近の災害危険性を確認している」の割合が全地域の中で最も高くなっています。

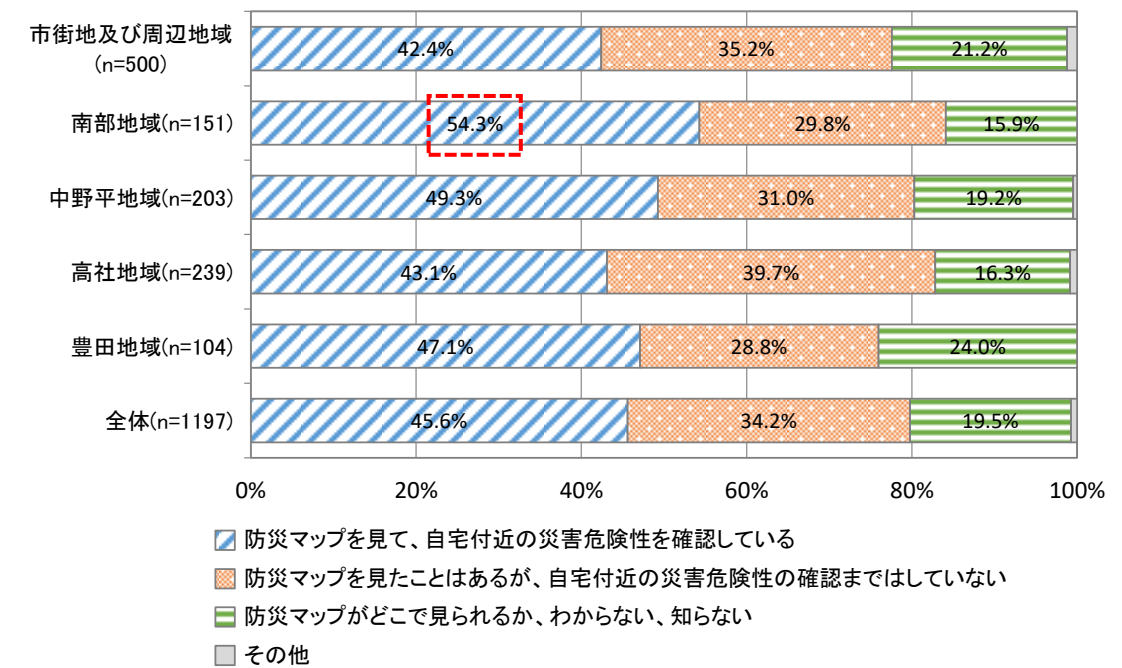


図 ハザードマップの認知度(単数回答)

(2) ハード対策

ハード対策として、特に「主要河川や水路における河川改修などの氾濫対策(65.0%)」を重視している傾向があります。

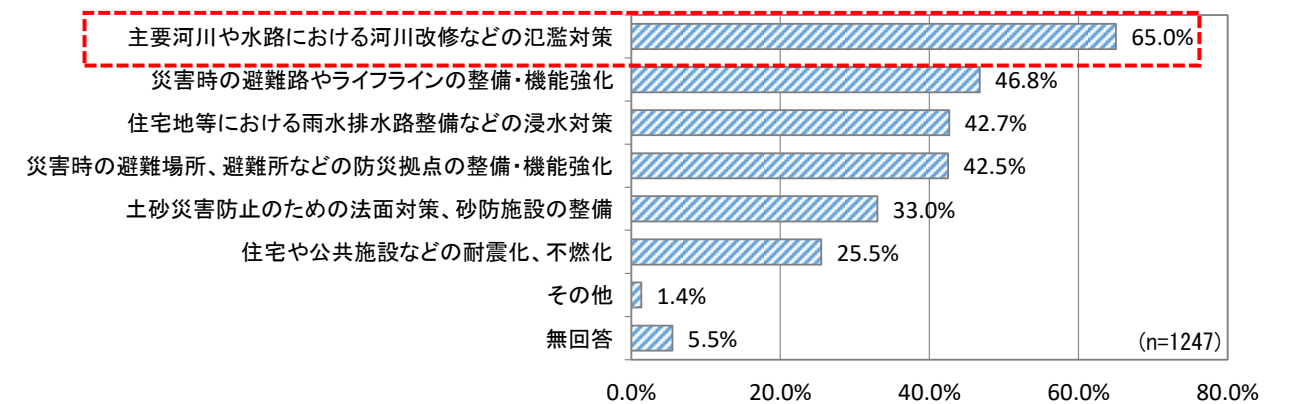


図 防災・減災に向けたハード対策(3つまで回答)

(3) ソフト対策

ソフト対策として、特に「防災行政無線や緊急メールなどの情報伝達手段を活用した、迅速かつ正確な情報発信(市街地及びその周辺地域：75.1%、南部地域：80.0%)」、「自力で避難することが困難な人が速やかに避難できる、支え合いの仕組みづくり(市街地及びその周辺地域：72.4%、南部地域：74.0%)」を重視している傾向があります。

災害時の「自助」の基本となる「マイ・タイムライン(時系列で整理した自分自身の行動計画)」は両地域とも市全体の水準をわずかに上回っています。

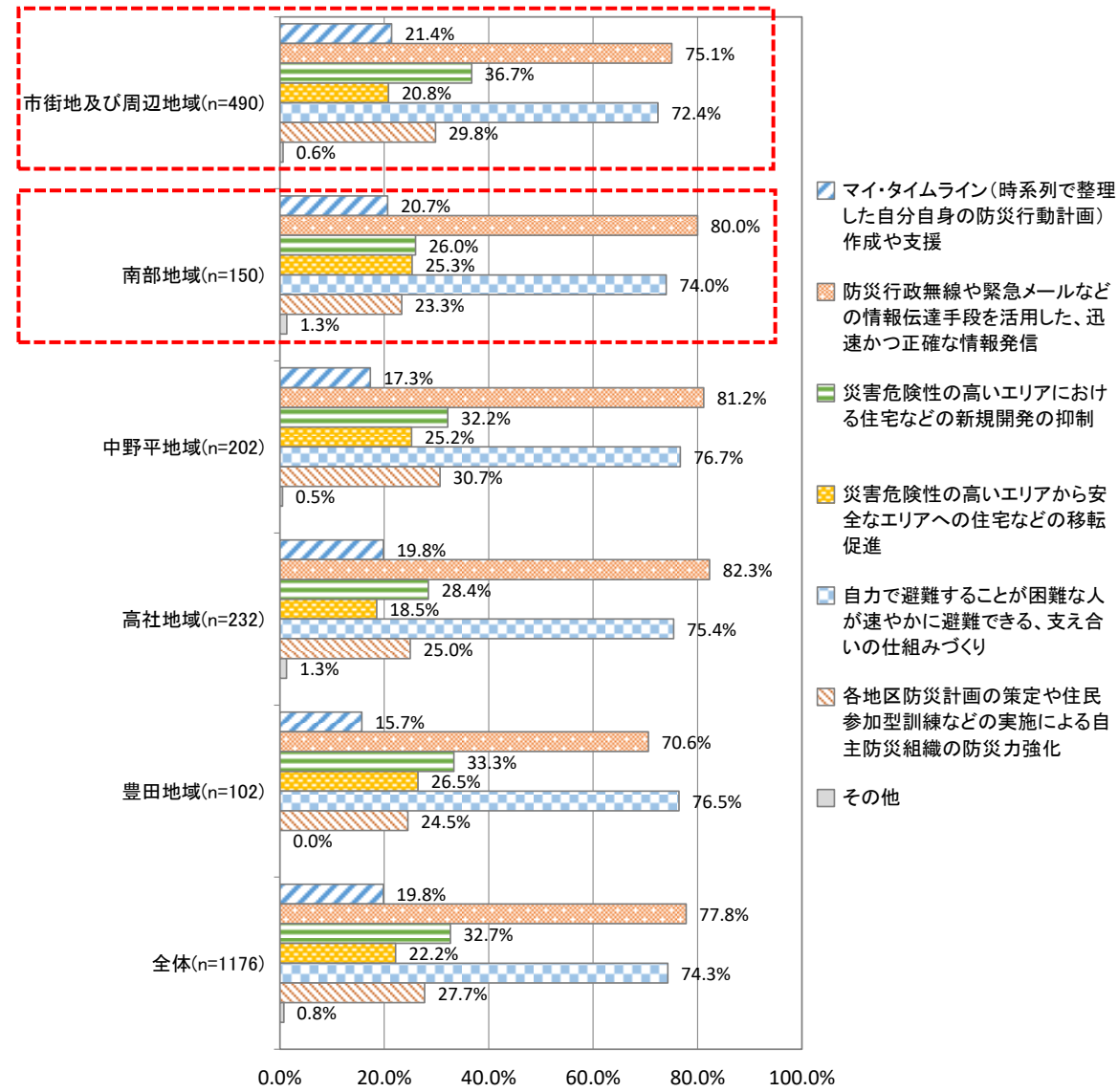


図 防災・減災に向けたソフト対策(3つまで回答)

3. 参考：現行計画における地域別構想の内容

(1) 市街地及びその周辺地域

- 参考として、現行の中野市都市計画マスタープラン(平成 21 年 3 月策定)における地域別構想で位置づけられた「4つの分野別の整備方針」及び「構想図」を整理しました。
- 今後、上位関連計画の方針と整合・調整を図りながら、整備方針の見直し案を作成する予定です。



現行計画	地域の目標	コンパクトで賑わいのあるまちづくり
	地域の基本方針	市街地は、行政機能、商業機能等の都市機能が集積し、賑わいの中心でもありましたが、人口の減少や空き店舗の増加など、活力の低下が見られます。 市街地の居住環境・経済基盤の再構築に努めるとともに、公共交通を活用したコンパクトで賑わいのある市街地の再生をめざします。

(1) 土地利用の方針

【現行計画】整備方針	
1	行政機能、商業機能、住居機能及び生活文化機能を維持・継承しながら中心市街地の再構築をめざします。
2	用途地域の拡大も視野にいれつつ、地域ニーズに見合った適切な土地利用の誘導をめざします。
3	市街地周辺部においては、適正な沿道土地利用を促します。
4	農地の保全を基本とし、既にスプロール化した農地の適正な利用を促します。

(2) 道路、交通体系の方針

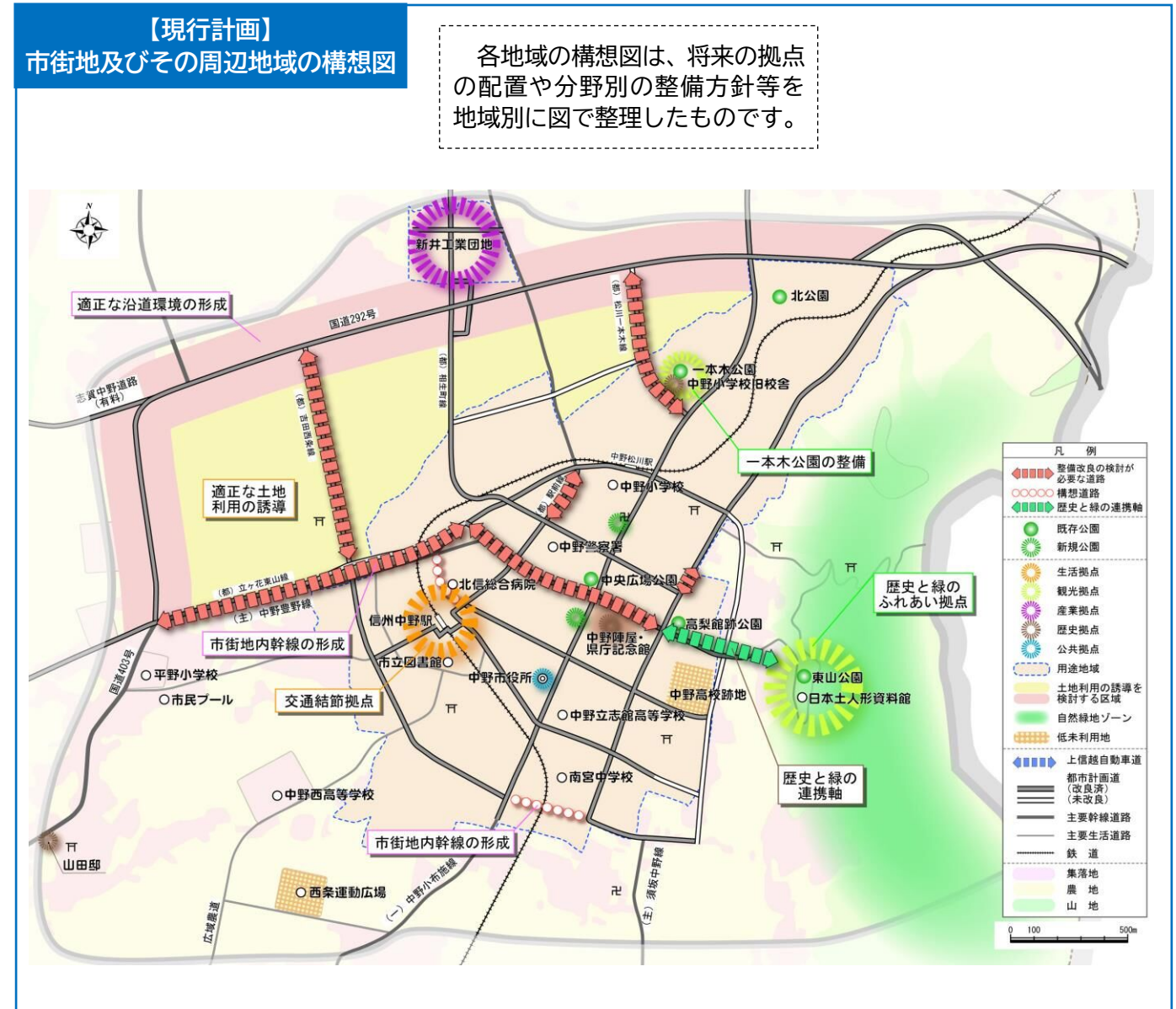
【現行計画】整備方針	
1	都市計画道路整備プログラムを策定し、これに基づき事業を実施します。
2	都市計画道路の見直しを行い、環状機能を拡充するなど適切な交通の分散・誘導に努めます。
3	用途地域内の都市計画道路の整備を推進します。
4	やさしい歩道整備を促進して歩道のユニバーサルデザイン化に努めます。
5	公共交通の見直し検討を行い、利用促進、運行の維持に努めます。

(3) 環境保全・景観形成の方針

【現行計画】整備方針	
1	公共空間・居住環境において、緑や水辺のある“ゆとり”と“癒し”の都市空間形成を推進します。
2	住環境等の整備を促進し、生活密着型のまちづくりを進めます。
3	用途混在や小規模・老朽・密集住宅地の形成、さらには、低未利用地の存在が確認できる中心市街地周辺の既存住宅地には、幹線街路や細街路等の生活基盤施設の整備に努めます。
4	無秩序な市街化が懸念される地区においては、市街化に対応した生活基盤施設の整備に努めます。
5	歴史的建造物や史跡の保全に努めるとともに、中野陣屋・県庁記念館界わいの街並み形成に努めます。

(4) 都市防災の方針

【現行計画】整備方針	
1	災害に備え、緊急輸送路や避難経路として活用できるみちづくりに努めます。
2	建築物等のセットバックを推進するとともに公共空地の確保に努めます。
3	建築物の耐震化及び不燃化を促進します。



(2) 南部地域

- 参考として、現行の中野市都市計画マスタープラン(平成 21 年 3 月策定)における地域別構想で位置づけられた「4つの分野別の整備方針」及び「構想図」を整理しました。
- 今後、上位関連計画の方針と整合・調整を図りながら、整備方針の見直し案を作成する予定です。



現 行 計 画	地域の 目標	延徳田んぼが広がる農業集落と晋平の里・間山温泉公園を拠点とした観光活用と農業振興を推進するまちづくり
	地域の 基本方針	延徳田んぼに代表される田畑地域は、本市の農業基盤であると同時に地域の特徴的な景観を形成しています。今後も農地の保全及び農政等の経営支援を組み合わせる農業振興に努めます。 中山晋平記念館や間山温泉公園周辺を観光拠点とし、市内の観光連携の強化をめざします。

(1) 土地利用の方針

【現行計画】整備方針	
1	農業生産の場として無秩序な開発を抑制し、農地の保全に努めます。
2	地域の中心となる延徳駅の周辺地区を生活拠点として位置づけ、生活支援機能の集積立地に努めます。
3	晋平の里として魅力的な既存施設や周辺の自然環境、歴史・文化とふれあえるよう、ネットワーク（道路、散策路等）を整備し、その活用を促進します。

(2) 道路、交通体系の方針

【現行計画】整備方針	
1	主要幹線道路の整備を促進するとともに観光拠点への誘導に努めます。
2	地域外との交流活動や地域内における住民等の身近な交通を支えていくため主要幹線道路、幹線道路、補助幹線道路等の道路網の整備を促進します。
3	本市と須坂市及び高山村を結ぶ県道須坂中野線の交通不能区間の解消を促します。
4	補助幹線道路や主要な生活道路は、主要幹線道や幹線道路のネットワークを基本としながら、地域内に散在する各種拠点地区・施設や集落間の連携を強化するため、計画的に配置し、その整備を推進します。
5	除雪等、冬期間の交通安全対策に努めます。
6	公共交通の見直し検討を行い、利用促進、運行の維持に努めます。

(3) 環境保全・景観形成の方針

【現行計画】整備方針	
1	大規模開発や施設立地を制限しつつ、沿道の適正な土地利用を促進します。
2	地域に散在する集落地では、生活基盤施設を充実していくとともに、晋平の里としてふさわしい環境を整備します。
3	遊休荒廃農地の解消と里山の保全に努めます。
4	延徳田んぼ及び周囲の眺望を保全し、大規模開発・建造物の抑制に努めます。
5	河川の治水に取り組むとともに親しみやすい水辺空間の確保に努めます。

(4) 都市防災の方針

【現行計画】整備方針	
1	低地の浸水対策、河川の氾濫など水害対策や急傾斜地の崩落防止など治山・治水対策を促進します。
2	建築物の耐震化及び不燃化を促進し、集落内における住宅密集地での災害の防止に努めます。

